

## 1. 年表

1943年12月9日	「教育に関する戦時非常措置方策」（1943年10月12日閣議決定）に関して「大学は存置の上研究所を設置すること」とする方策を理事会承認決定する。
1944年8月14日	同志社大学研究所設置。 当分の間研究所規則は明文化せず研究所打合会議及び同志社財団当局と研究所長の談合により漸次成立せしめることとなる。 研究所長 田村徳治法学部教授就任。
9月10日	第1回研究会議開催 1.事務室、所員室、会合室の設定 2.研究部門の設置 第1部 哲学、宗教、芸術 第2部 行政、法律、経済、厚生 3.研究会の開催 4.研究成果の刊行 5.研究所講座（講習会）の開設 6.講演会の開設 7.学内発表会の開催 8.研究所発開式 9.研究所概要の作成
9月26日	研究所方針が発表される。 「同志社大学研究所の使命とその拡大の当然性」（田村所長）
1945年4月8日	同志社大学研究所第1回戦時文化日曜講座が開催される。 （4月8日、4月22日、5月13日の計3回） 同志社大学研究所第2回戦時文化講座開催。 （日曜講座と火曜講座を各4回）
8月15日	敗戦
11月29日	同志社創立70周年記念日
11月30日	敗戦にともなう学園復興措置のひとつとして大学研究所の改組方策立案を田村所長に委嘱する。 （理事会）
1946年2月27日	「同志社平和文化研究所」として再発足することを決定する。（理事会）
3月29日	「同志社平和文化研究所」を「同志社文化研究所」と変更し、同時に同研究所職制を決定する。 （常任理事会）
1947年3月31日	「同志社文化研究所」を廃止する。
4月1日	「同志社学術研究所」を設置する。 「同志社文化研究所」を発展的に解消し、今後各学校各学科において研究を奨励し同志社学園全体にわたる研究所として設立する。同規程制定。
6月1日	研究所長 湯浅八郎総長兼任。
1948年3月31日	「同志社学術研究所」を廃止する。
4月1日	「同志社大学研究所」を設置する。 新学制による同志社大学発足。 神学部 文学部（英文、文化、社会の3学科） 法学部（法律、政治の2学科） 経済学部 教養学部（新設） 同時に、学校教育法第61条による大学附置研究所となる。 研究所長 大塚学長兼任。 同志社大学研究所規程制定。 また、研究所後援会を組織し、個人会員、法人会員を募り、経済界に援助を求める。

## 1. 年表

7月2日	夏期講座を開催する。 A 神学部「世界教化」講座（7月12日） B 経済学部「日本経済再建」講座（7月20日～24日） C 文学部「英語・英語教育」講座（7月23日～8月6日） D 文学部「社会福祉」講座（8月2日～10日） E 法学部「世界国家」「家」講座（8月30日～9月4日）
11月13日	秋期講座を開催 4回連続 毎土曜日 「人口問題」講座（11月13日～12月11日）
12月6日	経済座談会開催。
1949年1月29日	冬期講座を開催。 「人間性の問題」講座（1月29日～30日）
7月23日	大学研究所規程改正 1. 所員を大学、女子大学専任教員とする。 2. 所長を大学長兼任とする。 3. 人文、社会、自然の3部門を設ける。 同志社大学研究所特別助成金を設ける。 「大学研究所を改組し、たんに大学だけのものではなく、全同志社教職員のためにこれを開放し優秀な研究には助成金を支出する」（委員会） （実質的には助成金の交付機関となる）
12月28日	研究所長 大塚節治学長兼任。
1951年3月12日	学校法人「同志社」となる。
11月29日	同志社創立75周年。
1952年4月1日	同志社大学研究所規程改正 総合研究の推進（第2条第3項） 所長は学長が推薦する（第7条） 研究所長 住谷悦治経済学部教授就任。
4月14日	大学研究所打合せ会議において、総合研究促進の方針を出す。
7月3日	大学研究所主催夏期休暇中地方出張講演会について各学部で企画具体化し研究所へ連絡、出張旅費を研究所より支出することを申し合わせる。
1953年3月29日	共同資料部の新設について提案（委員会）
4月1日	大学院博士課程が設置される（神、文、法、経の各研究科） 大学研究所規程改正（委員会決定は1952年11月9日） 1. 研究所に資料室を設けることになる。なお資料室の資料収集については各学部より委員を出し、これに当たる。 2. 資料室に主幹を置く。 研究所長 和田洋一文学部教授就任。 資料室主幹 竹林庄太郎商学部教授就任。
1954年3月	事務室移転。 有終館から旧大学院（啓真館）北側へ（現大学総合図書館西）。
4月1日	機構改革（法人）が行われる。 二部設置（短期大学は1957年3月をもって廃止する）。
1955年2月3日	研究所叢書出版を決定する。（委員会） A 安永武人「同志社大学に於ける女子学生は何を考えているか」 B 竹林庄太郎「中小企業経営の実態」
4月1日	研究所長 岡村正人商学部教授就任。
10月15日	京都市から産業調査依頼を受ける。（京都市産業調査）
12月9日	理工学研究所設立にともない、工学部が研究所を脱退。（委員会承認）

## 1. 年表

1956年1月10日	同志社大学研究所研究叢書1 竹林庄太郎『中小工業経営の研究－燕洋食器工業』（ミネルヴァ書房）刊行
3月	女子大学、研究所を脱退する。（委員会承認）
10月25日	研究所規程改正の検討始まる。 1. 工学部、女子大学の研究所離脱にともない名称を実情にあうものとする。 2. 目的条項を簡明にする。 3. 総合および個別研究の実施、トンネル機関の弊を除く。 4. 研究所機構の整備（主体性の確立）。 5. 研究調査部を設けること。 6. 専任研究員制度を設けること。 などを次年度より改正実施に向けて抜本的な検討を行う。
1957年2月10日	人文科学研究所規程（案）成る。
3月12日	人文科学研究所規程制定、次年度より実施を決定。（大学評議会）
3月31日	工学部、女子大学、大学研究所より正式離脱。
4月1日	同志社大学人文科学研究所となる。 研究調査部、資料部発足する。 研究所長 岡村正人商学部教授留任。
6月14日	研究所プロパーのテーマとして「近代京都における社会発展の諸条件の研究」（研究会）を常任委員会に提案。
6月22日	研究所プロパーのテーマの決定、個人研究の廃止、共同研究の公募等、新体制による研究事業方針を決定する。（委員会）
9月1日	研究所長 黒松巖経済学部教授就任。
10月1日	同志社大学研究所研究叢書2 竹林庄太郎編『中小企業組織論』（ミネルヴァ書房）刊行
11月29日	人文科学研究所「紀要」創刊。
1958年2月14日	理工学研究所が設立される。
3月28日	アメリカ研究所が設立される。
4月1日	大学院博士課程、商学研究科設置。
5月30日	『キリスト教社会問題研究』創刊。
6月7日	調査部主幹 嶋田啓一郎文学部教授就任。
1959年1月30日	キリスト教社会問題研究会（CS研究会）の統合決定。（人文研の研究部門の一つとなる。） これにより、研究調査活動として、 第1研究「近代京都における社会発展の諸条件の研究」 第2研究「キリスト教社会問題研究」 第3研究「近畿地方村落構造の総合的研究」 の3部門を設定することになる。（公募は1959年5月）
4月1日	研究所長 小松幸雄経済学部教授就任。 資料部主幹 所長兼任。
7月-日	「キリスト教社会問題研究」にハーバード・エンチン研究所より補助金が交付される（7500ドル）以降、金額に変更あるも、1973年度まで継続する。
11月10日	人文科学研究所叢書3 宗藤圭三・黒松巖編『伝統産業の近代化－京友禅業の構造』（有斐閣）刊行。
1961年4月1日	研究所長 今井俊一商学部教授就任。
7月17日	資料部主幹 岡光夫経済学部教授就任。 資料収集の方向づけを一般の利用を図り能率的にすることを目的として資料センター設置。
12月7日	ミレンコ・マルコビッチ（ユーゴ大使館二等書記官国際労働運動研究所員）を囲む座談会開催。

## 1. 年表

1962年8月25日	同志社大学人文科学研究所規程改正。 研究部門の設置（第4条） 専任研究員制度（第6条）を実施し研究員の種別（第9条）を明文化。 同志社大学人文科学研究所研究員（専任）任用に関する規程制定。
1963年4月1日	最初の専任研究員として仲村研着任（助手）。 人文科学研究所研究叢書4 田畑忍編『憲法判例綜合研究』（ミネルヴァ書房）刊行。
7月15日	「キリスト教社会問題研究」の成果として、住谷悦治編『日本におけるキリスト教と社会問題』（みすず書房）刊行。
1964年3月1日	人文科学研究所研究叢書6 人文科学研究所編『近畿郷土村落の研究－馬路村』刊行。
4月1日	研究所長 吉武堯右商学部教授就任。
4月24日	研究調査部主幹 入江節次郎経済学部教授就任。
9月1日	専任研究員として太田雅夫着任。
11月2日	研究所助成金について共同研究を優先する方針を決定する。（委員会）
1965年3月8日	機関誌『紀要』を『人文科学』『社会科学』の二つに分離改題する。
3月17日	研究所委員（文学部所属）より所長宛文学関係の部門設定を願いたいとの申請書が提出される。
3月31日	『社会科学』創刊。
4月17日	安部磯雄生誕百年記念講演会開催。（於 明德館1番教室）
5月1日	専任研究員として杉井六郎・星野中着任。
5月28日	講演会「同志社山宣祭－憲法改悪阻止のために」開催。（於 明德館21番教室）
7月20日	研究活動体制を次の通り承認、9月1日より実施を決定する。 第1研究 キリスト教社会問題研究 第2研究 日本封建制の研究 第3研究 資本主義研究 A 日本資本主義研究 B 世界資本主義研究
8月15日	「キリスト教社会問題研究会」の成果として、人文科学研究所編『熊本バンド研究』（みすず書房）刊行。
9月5日	人文科学研究所研究叢書8 黒松巖編『西陣機業の研究』（ミネルヴァ書房）刊行。
11月29日	同志社創立90周年記念日。
11月30日	同志社創立90周年記念－『熊本バンド研究』出版記念講演会開催（於 毎日新聞ホール）。
1966年5月1日	専任研究員として志村賢男着任。
10月1日	機関誌『人文科学』創刊
11月26日	吉武所長「研究所規程一部改正についての趣旨」を発表。 研究所委員会の性格と構成について審議。
一一月	近藤栄蔵資料の寄贈を受ける。
1967年3月24日	研究所規程一部改正の件、継続審議となり次年度に持ち越す。
5月1日	研究所長 岡光夫経済学部教授就任。 研究所事務室が啓真館横から講武館2階へ移転。（CS研究は、先にクラーク館に移転済み）
5月31日	人文科学研究所研究叢書9 人文科学研究所編『林業村落の史的研究』（ミネルヴァ書房）刊行。
一一月	河原林孟夫氏所蔵文書の寄託を受ける。
1968年4月30日	人文科学研究所研究叢書10 人文科学研究所編『戦時下抵抗の研究Ⅰ－キリスト者・自由主義者の場合』（みすず書房）刊行。（1978年9月26日新装版刊行）
11月18日	研究所規程一部改正を研究所委員会に提案。 改正の要点 1.各学部より選出の委員を各2名に変更 2.両主幹制度を廃止し、専任研究員から選ばれた研究・資料主任に移行 3.事務主任を事務長に変更
1969年2月20日	研究所規程一部改正の件、大学評議会（学字句）一部修正のうえ可決。

## 1. 年表

3月15日	人文科学研究所研究叢書11 人文科学研究所編『戦時下抵抗の研究Ⅱ』（みすず書房）刊行（1978年9月26日新装版刊行）。
3月31日	星野中専任研究員依願退職。
4月1日	研究所長 八木鉄男法学部教授就任。 研究・資料主任 杉井専任研究員就任。
7月	学園紛争、全学的になる
9月12日	全学封鎖。 人文研事務室、一時学外へ移転。
12月3日	機動隊立ち入り捜査、これを機会に全学封鎖解除する。
1970年3月30日	人文科学研究所編『近藤栄蔵自伝』（ひえい書房）刊行。
5月1日	研究所長 山本浩三大学長兼任。
7月1日	研究所長 中條毅文学部教授就任。
9月17日	1971年度以降研究部門再編成の検討を開始する。
10月17日	1971年度新規研究部門の申請要綱決定。
12月19日	1971年度以降新規研究部門決定。（委員会）
1971年4月1日	新研究部門プロジェクト発足。（2カ年の予定） 第1研究 キリスト教社会問題研究 第2研究 日本の「家」 第3研究 両大戦間時代における知識人と政治 第4研究 都市問題の研究 第5研究 芸術における伝統と変革 第6研究 日本における外来文化の受容とその論理
5月15日	人文科学研究所「閲覧要綱」改正。 文献資料利用原則の明確化と利用の効率、便宜をはかる。
5月31日	人文科学研究所研究叢書12 人文科学研究所編『京都社会史研究』（法律文化社）刊行。
9月1日	フルブライト派遣研究員 Dr.Fred G. Notehelfer氏を客員教授として受け入れる（1年間）。 第1研究（海老名班）に参加。
一一月	水谷長三郎所蔵資料の寄贈を受ける。
1972年3月31日	太田雅夫専任研究員依願退職。
4月1日	研究・資料主任 志村専任研究員就任。
6月30日	人文科学研究所キリスト教社会問題研究会編『特高資料による戦時下のキリスト教運動1』（新教出版社）刊行（～1973年8月31日3巻刊行）。
9月1日	アーモスト大学 Ray Moore 氏を客員教授として受け入れる（1年間）。第1研究に参加。
1973年6月11日	研究所長 古米淑郎経済学部教授就任。
8月31日	人文科学研究所キリスト教社会問題研究会編『日本の近代化とキリスト教』（新教出版社）刊行。
9月1日	イリノイ州立大学 John D. Pierson 氏を客員研究員として受け入れる（1年間）。第1研究に参加。
9月13日	研究部門再編成の件、研究所委員会に原案提示。 「明治時代の芸術思想」（人文）、「地域社会と福祉」（社会）、「キリスト教社会問題研究」（総合）の3プロジェクトを設定、さらに1～2のプロジェクトを募集する。
11月9日	1974年度以降研究部門の5プロジェクトを決定する。（委員会）
11月15日	専従研究員制度内規制定。（大学評議会） 研究補助者制度内規制定。（大学評議会）
1974年1月31日	事務室、講武館、クラーク館より啓明館に移転。
3月18日	カールマルクス大学 Dr. Claus Trager 氏が日本学術振興会流動研究員として来学（4月8日帰独）。第3、第5研究合同研究会開催。

## 1. 年表

4月1日	<p>研究所長 笹田友三郎経済学部教授就任。 新研究部門プロジェクト発足。</p> <p>第1研究 キリスト教社会問題研究 第2研究 European Communities の発展とそれにもなう法制度の変遷 第3研究 京都商業慣行の研究 第4研究 地域社会と福祉 第5研究 明治時代の芸術思想</p>
1974年4月1日	<p>「研究補助者についての申し合せ」制定。 「同志社大学人文科学研究所図書資料閲覧について」制定。</p>
9月	北海道家庭学校所蔵留岡幸助日記・手帖のマイクロ化を行う。
1975年3月10日	『人文科学研究所30年史』刊行。
1976年3月31日	志村賢男専任研究員依願退職。
4月1日	<p>田中真人・高久嶺之介 専任研究員（助手待遇）として着任。 研究・資料主任 仲村専任研究員就任。</p>
9月17日	第6期プロジェクト（1977年～79年度）に人文研設定の研究会として「キリスト教社会問題研究」（総合）、「日本経済における地場産業問題の研究」（社会）、「近代化過程における民族文化の諸問題」（人文）の3つのプロジェクトを編成することが決定される。（常任委員会）
10月14日	第6期プロジェクトとして人文研設定の3つのプロジェクトに「家族制度の比較研究」を加え、第6期は4つのプロジェクトになることを決定する。（研究所委員会）
1977年4月1日	<p>研究所長 出石邦保商学部教授就任。 新研究会発足。</p> <p>第1研究 キリスト教社会問題研究 第2研究 家族制度の比較研究 第3研究 日本経済における地場産業問題の研究 第4研究 近代化過程における民族文化の諸問題</p>
4月20日	専任研究員および専従研究員の研究室、啓明館2階から4階に移転。
11月12日	<p>学内で第1回公開講演会開催。（12日、19日）</p> <p>テーマ①：欧州経済共同体商事法の特色 講演者：岡本善八（法学部教授）</p> <p>テーマ②：京都商人の歴史的背景 講演者：安岡重明（商学部教授）</p>
11月19日	<p>学内で第1回公開講演会開催（2日目）。</p> <p>テーマ③：社会事業の原点としての留岡幸助 講演者：住谷馨（文学部教授）</p> <p>テーマ④：労働福祉の重点課題—中高年労働と老齡福祉への道 講演者：中條毅（文学部教授）</p> <p>テーマ⑤：大西祝の美学 講演者：金田民夫（文学部教授）</p>
12月10日	人文科学研究所研究叢書13 人文科学研究所編『民友社の研究』（雄山閣）刊行。
1978年5月12日	<p>学内で第2回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：近代京都の政治と民衆 講演者：田中真人（人文研専任講師）、高久嶺之介（人文研専任講師）</p>
10月24日	<p>京都商工会議所で第3回公開講演会開催（24日、25日）</p> <p>テーマ：京都の伝統産業 講演者：松本 通晴（文学部教授）、前川 恭一（商学部教授）</p>
11月23日	人文科学研究所編『留岡幸助著作集』第1巻（同朋舎）刊行。（～1981年2月1日第5巻刊行）
1979年1月15日	Andrew Hamish Ion 氏（イギリス・シェフィールド大学日本研究センター）を客員研究員として受け入れる（～同年11月26日）。第1研究に参加。

## 1. 年表

4月1日	研究所長 浅香正文学部教授就任。
5月12日	東京で第4回公開講演会開催。 テーマ：徳富蘇峰と同志社 講演者：杉井六郎（人文研教授）
9月17日	第7期研究会(1980~82年)に研究所が設定する研究会として、「キリスト教社会問題研究」（総合）、「財閥の比較研究」（社会）、「京都地場産業の研究」（社会）とすることが決定。（常任委員会）
10月17日	第7期研究会として、人文研設定の3つの研究会に「現代資本主義と低開発」（社会）「近代社会における人権問題の研究（総合）の2つの公募研究会を加え、5つの研究会決定。（研究所委員会）
10月20日	京都社会福祉会館で第5回公開講演会開催。 テーマ：丹波山国農兵隊—その思想と行動 講演者：仲村研（人文研教授）
11月15日	人文科学研究所研究叢書14 人文科学研究所編『松本平におけるキリスト教—井口喜源治と研成義塾』（同朋舎出版）刊行。
1980年4月1日	研究所長 竹中正夫神学部教授就任。 研究・資料主任 杉井専任研究員就任。 新研究会発足。 第1研究 キリスト教社会問題研究 第2研究 財閥の比較研究 第3研究 京都地場産業の研究 第4研究 現代資本主義と低開発 第5研究 近代社会における人権問題の研究
5月17日	長野県穂高町で第6回公開講演会開催。 テーマ：安曇野近代化の一光源—井口喜源治と研成義塾 講演者：竹中正夫（神学部教授）
11月8日	京都社会福祉会館で第7回公開講演会開催。 テーマ：日本の家 講演者：高久嶺之介（人文研専任講師）、仲村研（人文研教授）
一一月	村井知至関係資料の寄贈を受ける。
1981年3月20日	人文科学研究所研究叢書15 人文科学研究所編『共同研究 日本の家』（国書刊行会）刊行。
4月1日	庄司俊作 専任研究員（助手）として着任。
5月23日	岡山市で第8回公開講演会開催。 テーマ：岡山県の生んだ社会福祉事業の先駆者 留岡幸助 講演者：守屋茂（元龍谷大学教授）、住谷馨（文学部教授）、杉井六郎（人文科学研究所教授）
9月1日	研究所長 西田毅法学部教授就任。
10月20日	法政大学大原社会問題研究所と「所蔵資料の相互提供に関する覚書」を結ぶ。資料の提供は原則として所蔵する資料の複写本。
10月31日	京都社会福祉会館で第9回公開講演会開催。 テーマ：町衆は“マチシュウ”か 講演者：仲村研（人文研教授）
1982年3月15日	田中真人専任研究員、ロンドン大学に在外研究（～1983年2月14日）。
3月20日	人文科学研究所研究叢書16 人文科学研究所編『和装織物業の研究』（ミネルヴァ書房）刊行。
4月1日	Aldo Tollini 氏（Member of the Italian Association for Japanese Studies）を客員研究員として受け入れる（～1983年3月）。
5月22日	大阪市で第10回公開講演会開催。 テーマ：日本の近代化と同志社 講演者：島尾 永康（工学部教授）、杉井六郎（人文研教授）

## 1. 年表

9月14日	第8期研究会(1983~85年)に研究所が設定する研究会として、「キリスト教社会問題研究」(総合)、「近代地方名望家の研究」(社会)を2つを決定。(研究所委員会)
9月28日	留岡幸助著作集編集委員会(代表:杉井六郎人文研教授)に対し、第12回毎日社会福祉顕彰特別賞授与。
10月27日	第8期研究会として、人文研設定の2つの研究会に「産業・企業組織の比較的研究」(社会)「産業構造と中小企業問題」(社会)の2つの公募研究会を加え、4つの研究会決定。(研究所委員会)
11月13日	東京で第11回公開講演会開催。 テーマ①:縁起絵巻の世界—日本人の信仰に関連して 講演者:笠井昌昭(文学部教授) テーマ②:財閥の家憲と華族の家憲—とくに財産管理について 講演者:安岡重明(商学部教授)
11月-日	Janina Marczevska氏(VS University of Warszawa Wydział Neofilologii Instytut Orientalistyczny)を客員研究員として受け入れる(～1983年10月)。
12月10日	仲村研専任研究員に対し、京都新聞五大賞第26回文化賞授与。 受賞対象:「京都とその周辺地域の「町」「家」の歴史的研究」
12月23日	人文科学研究所編『和装織物業の研究』(1982年刊、ミネルヴァ書房、代表者:前川恭一商学部教授)にたいし、商工組合中央金庫主催第7回中小企業研究奨励賞本賞授与。
1983年4月1日	研究所長 門脇彰商学部教授就任。 研究・資料主任 仲村専任研究員就任。 新研究会発足。 第1研究 キリスト教社会問題研究 第2研究 産業・企業組織の比較的研究 第3研究 産業構造と中小企業問題 第4研究 近代地方名望家の研究 「ハーバード・燕京・同志社東方文化講座」の蔵書受入登録開始
5月25日	学内で第12回公開講演会開催。 テーマ①:憧憬と失望と—欧米体験再考 講演者:田中真人(人文研助教授) テーマ②:村人(もろと)と町衆(ちょうしゅう) 講演者:仲村研(人文研教授)
6月27日	日本私学振興財団昭和58年度学術研究振興資金、第4研究(近代地方名望家の研究)の研究事業に対し交付。
11月12日	京都社会福社会館で第13回公開講演会開催。 テーマ:京都の地場産業問題を考える 講演者:笹田友三郎(経済学部教授)、前川恭一(商学部教授)
1984年3月30日	人文科学研究所研究叢書17 人文科学研究所編『『六合雑誌』の研究』『『六合雑誌』総目次』(教文館)刊行。
5月16日	学内で第14回公開講演会開催。 テーマ①:日本ファシズムと農民 講演者:庄司俊作(人文研専任講師) テーマ②:大正期の皇室と朝鮮問題 講演者:高久嶺之介(人文研助教授)
10月27日	京都会館で第15回公開講演会開催。 テーマ:写真でみる京都の百年 講演者:田中真人(人文研助教授)
11月-日	Jeremy L. Giddings氏(Harvard University)を客員研究員として受け入れる(～1985年10月)。

## 1. 年表

1985年1月1日	John Ulmer氏 (Indiana University) を客員研究員として受け入れる (～1985年11月)。
2月15日	人文科学研究所研究叢書18 人文科学研究所編『財閥の比較史的研究』 (ミネルヴァ書房) 刊行。
4月1日	研究・資料主任 田中専任研究員就任。 Tamara K Hareven氏 (クラーク大学歴史学部教授) を客員教授として受け入れる (～1985年8月)。
6月26日	第9期研究会(1986～88年)に研究所が設定する研究会として、「キリスト教社会問題研究」 (総合)、「地域社会の史的研究」 (社会) を2つを決定。(研究所委員会)
6月29日	大津市で第16回公開講演会開催。 テーマ: 近江の歴史文化講座 講演者: 藤田貞一郎 (商学部教授)、仲村研 (人文研教授)
9月1日	趙宝庫氏 (中国武漢大学歴史学部) を客員研究員として受け入れる (～1986年11月30日)。
10月16日	第9期研究会として、人文研設定の2つの研究会に「産業化と雇用慣行の研究」「南北問題の歴史構造」の2つの公募研究会を加え、4つの研究会決定。(研究所委員会)
10月17日	門脇彰所長退任。
10月18日	木枝燦学長、所長兼任。
10月29日	学内で第17回公開講演会開催。 テーマ: 南山城の歴史と文化 講演者: 鈴木重治 (学術調査主任)、杉井六郎 (人文研教授)
1986年3月30日	人文科学研究所研究叢書19 人文科学研究所編『『七一雑報』の研究』 (同朋舎) 刊行。
4月1日	研究所長 畑肇法学部教授就任。 「同志社大学人文科学研究所図書資料利用規則」改正 新研究会発足。 第1研究 キリスト教社会問題研究 第2研究 産業化と雇用慣行の研究 第3研究 南北問題の歴史構造 第4研究 地域社会の史的研究ーにない手・編成および諸類型
5月1日	Tamara K Hareven 氏 (クラーク大学歴史学部教授) を客員教授として受け入れる (～1987年8月31日)。
6月14日	田辺校地で第18回公開講演会開催。 テーマ: 田辺町史の諸問題 講演者: 露口卓也 (文学部助教授)、仲村研 (人文研教授)
9月27日	滋賀県八日市市で第19回公開講演会開催。 テーマ①: 明治・大正期の八日市 講演者: 高久嶺之介 (人文研助教授) テーマ②: 保内今堀郷研究余話 講演者: 仲村研 (人文研教授)
一一月	山岸和夫氏より長田時行文書の寄贈を受ける。
1987年4月1日	研究所長 伊藤史朗経済学部教授就任。
5月10日	楊翰球氏 (中国武漢大学副教授) を客員研究員として受け入れる (～1988年5月9日)。
6月13日	京都府相楽郡山城町で第20回公開講演会開催。 テーマ: 山城町史を学ぶ特別講座 講演者: 沖田行司 (文学部助教授)、田中真人 (人文研教授)
11月7日	神戸市で第21回公開講演会開催。 テーマ: 神戸とキリスト教 講演者: 茂 義樹 (梅花短期大学教授)、竹中 正夫 (神学部教授)

## 1. 年表

1988年4月1日	研究所長 柏博経済学部教授就任。 李雲九氏（韓国成均館大学校儒学大学教授）を客員研究員として受け入れる（～1988年8月31日）。
6月1日	山下忠規氏（Professor of Religion, Mount Holyoke College）を客員研究員として受け入れる（～1989年5月）。
6月17日	学内で第22回公開講演会開催。 テーマ：天皇制とキリスト教 講演者：土肥 昭夫（神学部教授）、田中 真人（人文科学研究所教授）
6月24日	第10期研究会の編成方針と募集要項決定。（研究所委員会） 人文研設定の研究会を置くことをやめる。また、公募研究会の条件として大学専任教員が10名以上含まれることという条件を8名に変える。
8月1日	韓相一氏（Professor of Political Science, Kookmin University）を客員研究員として受け入れる（～1989年3月31日）。
10月14日	第10期研究会として6つの研究会を決定（研究所委員会）
1989年1月20日	学内で第23回公開講演会開催（杉井教授退職記念講演会）。 講演者：杉井 六郎（人文科学研究所教授）
2月-日	山室光子氏より山室軍平資料寄贈。
3月30日	人文科学研究所研究叢書20 人文科学研究所編『排耶論の研究』（教文館）刊行。
3月31日	杉井六郎専任研究員、定年退職。
4月1日	研究所長 藤馬龍太郎法学部教授就任。 吉田亮 専任研究員（助手）として着任。 研究・資料主任 高久専任研究員就任。 新研究会発足。 第1研究 キリスト教社会問題研究 第2研究 市場の成長と商品の変遷 第3研究 変革期における世界経済と第三世界の発展構造 第4研究 地域社会のにない手の史的研究 第5研究 技術革新と産業社会 第6研究 超越的世界観の比較文化的研究
4月20日	「カナダにおける日系人社会と日本人キリスト教会—歴史と現状」についての研究グループ（代表：竹中正夫神学部教授）、カナダ政府より「日加研究賞」受賞（私学では最初）。
6月7日	Tamara K Hareven 氏（クラーク大学歴史学部教授）を客員教授として受け入れる（～1989年9月6日）。
6月30日	学内で第24回公開講演会開催。 テーマ：キリスト教社会問題研究 講演者：飯田耕二郎（女子中高教諭）、宮澤正典（女子大学教授）
7月18日	藤井株式会社より会社経営資料の寄贈を受ける。
10月27日	学内で第25回公開講演会開催。 テーマ：市場の成長と商品の変貌 講演者：石川健次郎（商学部教授）、庄林二三男（大阪国際大学教授）
1990年3月10日	人文科学研究所研究叢書21 内田勝敏編『世界経済と南北問題』（ミネルヴァ書房）刊行。
3月13日	仲村研専任研究員、逝去。
6月13日	学内で第26回公開講演会開催。 テーマ：新島襄永眠100周年記念 講演者：河野仁昭（社史資料室長）
12月1日	研究所長 安枝英諄法学部教授就任。

## 1. 年表

1991年3月13日	人文科学研究所研究叢書22 人文科学研究所編『山室軍平の研究』（同朋舎）刊行。 学内で第27回公開講演会開催。 テーマ：『山室軍平の研究』刊行記念 講演者：室田 保夫（高野山大学助教授）、本井 康博（人文科学研究所研究協力者）、本井 康博（人文科学研究所研究協力者）
3月25日	『ハーバード・燕京・同志社東方文化講座研究室旧蔵漢籍目録』刊行。
4月1日	研究所長 正木久司商学部教授就任。 研究・資料主任 庄司専任研究員就任。
5月22日	第11期研究会応募要項決定（研究所委員会） 1.研究の分野を、(1)近代社会の歴史的研究（①キリスト教社会問題、②近現代史あるいは比較史）、(2)現代世界・現代社会の総合的研究（①地域研究、②社会科学研究、③人文科学研究）とする。 2.「公募研究会の条件」として、従来大学専任教員8名以上という条件を、「原則として、全体で8名以上、そのうち専任研究員もしくは兼任研究員が合わせて4名以上であること」に変える。
5月25日	山室軍平氏遺族からの寄付金をもって「山室軍平記念基金規程」制定施行。
6月21日	学内で第28回公開講演会開催。 テーマ：地球環境問題と私たちの暮らし一足元で行動しよう 講演者：群嶋孝（経済学部教授）
10月16日	第11期研究会として11の研究会決定。さらに、人文科学研究所将来計画検討委員会を設置することを決定。（研究所委員会）
10月29日	将来計画検討委員会発足。
11月14日	学内で第29回公開講演会開催。 テーマ：日系カナダ人社会とキリスト教会 講演者：森川眞規雄（文学部教授）、佐々木敏二（文学部嘱託講師）
12月30日	人文科学研究所「海外移民とキリスト教会」研究会編『北米日本人キリスト教運動史』（PMC出版）刊行。
1992年1月22日	「寄付金等の取り扱いについての申し合わせ」決定。（運営委員会） 1.寄付金の種類は、「山室軍平記念基金」「仲村研寄付金」「人文研寄付金」の3つ。 2.新しく寄付金等があり、その用途が確定していない場合、これを「山室軍平記念基金」に繰り入れる、等。
1月28日	将来計画検討委員会で「人文科学研究所の将来計画」決定。
2月19日	「人文科学研究所の将来計画」了承。（研究所委員会）
4月1日	研究所長 加藤盛弘商学部教授就任。 新研究会発足。 第1研究 近代日本社会の展開とキリスト教 第2研究 日本におけるキリスト教の受容と教派・教会の展開 第3研究 他民族社会における異文化交流と社会構造の変容に関する研究 第4研究 所有と経営の国際比較 第5研究 現代世界経済とアジアの発展途上国 第6研究 都市化の研究 第7研究 企業のグローバル化と産業社会 第8研究 覇権構造と政策協調 第9研究 近代市民社会と「周辺」システムに関する比較社会経済史 第10研究 統一ドイツとEC統合問題 第11研究 現代社会における政府システムの変容と課題

## 1. 年表

6月19日	田辺校地で第30回公開講演会開催。 テーマ：コロンブスとその時代 講演者：布留川正博（経済学部専任講師）、立石博高（東京外大助教授）
11月14日	学内で第31回公開シンポジウム開催。 テーマ：過去の克服と二つの戦後—日本とドイツ 講演者：三島憲一（大阪大学教授）、田中宏（愛知県立大学教授）、広渡清吾（東京大学教授）、栗屋憲太郎（立教大学教授）、山口定（大阪市立大学教授） コーディネーター：望田幸男（文学部教授）
1993年4月1日	研究・資料主任 高久専任研究員就任。
10月5日	学内で第32回公開講座開催（10月5日、12日、19日、27日の計4回）。 テーマ：外国人労働者と地域社会 講演者：馬場 浩也（経済学部教授）、宮島喬（お茶の水女子大学教授）、森川真規雄（文学部教授）、小嶋典明（大阪大学助教授）
1994年2月5日	人文科学研究所研究叢書24 岩下正弘編『市場・商品開発・企業競争—製品革新と市場変容に対する現代的視点』（同文館出版）刊行。
2月16日	研究所委員会で、「同志社大学人文科学研究所規程」「同志社大学人文科学研究所内規」「同志社大学人文科学研究所専従研究員制度内規」改正決定。 1.研究所委員会の構成員に言語文化教育研究センター専任教員を加える。 2.研究協力者の名称を「嘱託研究員（社外）」に変える。 3.嘱託研究員（社外）の任期を参加する研究会の存続期間とする、等。
3月31日	人文科学研究所研究叢書23 人文科学研究所編『技術革新と産業社会』（中央経済社）刊行。
4月1日	研究・資料主任 田中専任研究員就任。 林田秀樹 専任研究員（助手）として着任。
6月18日	学内で第33回公開講演会開催。 テーマ：近代日本の転換点を考える 講演者：佐々木 克（京都大学教授）、吉田 守男（樟蔭女子短期大学教授）
10月1日	人文科学研究所の50周年を記念して人文科学研究所編『人文科学研究所の50年』を刊行。 人文科学研究所創立50周年記念シンポジウム開催。 テーマ：自由の風土・在野の精神—近代日本における同志社と早稲田 講演者：竹中正夫（神学部教授）、中村尚美（早稲田大学教授）、笠原芳光（京都精華大学教授）、間宮國夫（早稲田大学教授、本井康博（文学部嘱託講師）、佐藤能丸（早稲田大学講師） コーディネーター：田中 真人（人文研教授）
1995年4月1日	新研究会発足。 第1研究 近代日本の社会問題とキリスト教 第2研究 新島襄の総合的研究 第3研究 近代日本におけるプロテスタント・ミッションと主要教派の形成 第4研究 多民族における文化・社会変容の研究 第5研究 商品と生活 第6研究 世界経済システムの現代的構造 第7研究 地域社会変容の史的研究 第8研究 日本の企業の海外展開に伴う産業の空洞化の理論的・実証的研究 第9研究 世界経済の構造的変化とマクロ経済政策協調—覇権の経済理論の構築を目指して— 第10研究 社会変動と周縁性の総合的研究—階層・ジェンダー・人種— 第11研究 サービス供給システムの変容と公共部門の新たな役割—福祉サービスを中心として—

## 1. 年表

6月12日	学内で第35回公開講演会開催。 テーマ：外国人教師の目に映った百年前の同志社 講演者：坂本清音（女子大学教授）、本井康博（文学部嘱託講師）
10月6日	学内で第36回公開講演会開催。 テーマ：日本企業とアジア 講演者：井上 俊治（松下電器元社長）、関 満博（専修大学商学部助教授）
12月1日	同志社社史資料室が人文研へ移管され、「同志社社史資料室運営委員会規程」を制定。
1996年3月30日	人文科学研究所研究叢書25 土肥昭夫・田中真人編『近代天皇制とキリスト教』（人文書院）刊行。
4月1日	研究所長 山中俊夫法学部教授就任。 吉田亮専任研究員が文学部へ移籍（助教授）。
7月22日	学内で第37回公開講演会開催。 テーマ：異文化交流と近代化 講演者：園田英弘（国際日本文化研究センター教授）、沖田行司（文学部教授）
9月-日	同志社社史資料室の新島研究会が発展的に解消され、人文研内社史資料室第1部門として位置づけられる。
11月9日	学内で第38回公開講演会開催。 テーマ：アジアの経済成長と日本経済のあり方 基調講演：森口親司（大阪大学経済研究所長） パネリスト：石垣健一（神戸大学経済経営研究所長）、吉田和男（京都大学大学院教授）、高阪章（大阪大学大学院教授）、松島茂（通産省中小企業庁計画課長） コーディネーター：篠原総一（経済学部教授）
1997年1月20日	社史資料室・新島襄先生生誕154年永眠106年記念公開講演会を人文研第2研究と共催 テーマ：新島襄と現代 講演者：竹中正夫
2月20日	人文科学研究所研究叢書26 人文科学研究所編『日本プロテスタント諸教派史の研究』（教文館）刊行。
2月25日	人文科学研究所研究叢書27 人文科学研究所編『在米日本人社会の黎明期―「福音会沿革史料」を手がかりに』（現代史料出版）刊行。
11月1日	学内で第39回公開講演会開催。 テーマ：企業と女性―雇用平等のフロンティア 講演者：越堂静子（「商社に働く女性の会」世話人）、宮地光子（弁護士）
12月12日	学内で第40回公開講演会開催。 テーマ：日本外交『不在』の起原を求めて―安保条約を再検討する 講演者：豊下櫛彦（立命館大学法学部教授）
1997年	同志社大学東京講座事務局を置く（～2007年度末まで）。
1998年3月20日	人文科学研究所研究叢書28 人文科学研究所編『世界経済の構造的変化とマクロ経済政策』（嵯峨野書院）刊行。
3月31日	人文科学研究所研究叢書29 沖田行司編『ハワイ日系社会の文化とその変容―1920年代のマウイ島の事例』（ナカニシヤ出版）刊行。

## 1. 年表

4月1日	<p>研究所長 森田章法学部教授就任。 新研究会発足。</p> <p>第1研究 近代日本の社会問題の周縁とキリスト教 第2研究 新島襄の学際的研究 第3研究 アメリカン・ボード宣教師と日米文化交流 第4研究 文化の中心と周縁の総合研究－カルチュラル・スタディーズを方法論として 第5研究 ランドマーク商品と博覧会・見本市 第6研究 経済自由化と世界経済システム 第7研究 地域社会組織の変容 第8研究 移行期の世界経済のマクロ経済分析 第9研究 行政改革の現代的位相－省庁再編、地方分権、公・共・私関係を中心として</p>
4月20日	人文科学研究所研究叢書30 森川眞規雄編『先住民、アジア系、アカデミアン－変容するカナダ多文化社会』（行路社）刊行。
11月7日	<p>学内で第41回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：京都産業の革新－21世紀に生きる道 講演者：小堀脩（京都商工会議所事務局長）</p>
12月19日	<p>学内で第42回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：日本人から日系人へ－21世紀の実験場ハワイ 講演者：沖田行司（文学部教授）</p>
1999年3月28日	庄司俊作専任研究員、カリフォルニア州立大学バークレー校にて在外研究（～2000年3月27日）。
3月30日	人文科学研究所研究叢書31 人文科学研究所編『『新人』『新女界』の研究－二〇世紀初頭キリスト教ジャーナリズム』（人文書院）刊行。
3月20日	人文科学研究所研究叢書32 人文科学研究所編『石井十次の研究』（同朋舎）刊行。
3月31日	人文科学研究所研究叢書33 人文科学研究所編『来日アメリカ宣教師－アメリカン・ボード宣教師書簡の研究1869-1890』（現代史料出版）刊行。
11月5日	<p>宮崎県高鍋町で第43回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：『石井十次の研究』刊行記念講演会 講演者：室田保夫（関西学院大学社会学部教授）、田中真人（人文研教授）</p>
12月7日	<p>学内で第44回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：香港というありかた－「植民地」から「国家を超えた社会」へ 講演者：森川眞規雄（文学部教授）</p>
1999年	庄司俊作専任研究員（教授）が日本村落学会大会で98年度「日本村落研究学会奨励賞」受賞。
2000年4月1日	研究所長 吉田謙二文学部教授就任。
5月15日	<p>学内で第45回公開講演会開催。（22日、29日、6月5日）</p> <p>テーマ：花洛の江戸時代 講演者：水本邦彦（京都府立大学文学部教授）、宇佐美英機（滋賀大学経済学部教授）、家近良樹（大阪経済大学教養部助教授）、井ヶ田良治（法学部名誉教授）</p>
10月16日	<p>学内で第46回公開講演会開催。（23日、30日、11月6日）</p> <p>テーマ：「伝統の都」の近代 講演者：小林丈広（京都市歴史資料館研究員）、高木博志（京都大学人文科学研究所助教授）、高久嶺之介（人文研教授）田中真人（人文研教授）</p>

## 1. 年表

2001年4月1日	<p>研究所長 田端信廣文学部教授就任。 新研究会発足。</p> <p>第1研究 近代日本における女性キリスト者の研究 第2研究 同志社社史資料の研究—同志社125年の再吟味 第3研究 アメリカン・ボード宣教師と日本社会（1869-1895） 第4研究 トランス・カルチャー—越境する社会の顔と記憶 第5研究 ランドマーク商品の定着・普及過程の研究 第6研究 グローバル市場経済化のなかのアジア 第7研究 地域社会変容の史的研究—近畿地方を対象に 第8研究 日本産業の10年—1991～2000年 第9研究 21世紀における行政管理改革—国際的比較の視点から見たわが国行政改革の特質と課題 第10研究 近代日本における「社会的身体」の変容の研究 第11研究☒社会運動・政策決定とジェンダーの国際比較研究</p>
4月10日	人文科学研究所研究叢書34 平勝廣編『グローバル市場経済化の諸相』（ミネルヴァ書房）刊行。
5月18日	<p>学内で第47回公開講演会開催。 テーマ：日本最初の社会主義政党—社会民主党100年— 講演者：田中真人（人文研教授）、松尾尊兪（京都橘女子大学教授）</p>
11月20日	<p>学内で第48回公開講演会開催。 テーマ：ラテンアメリカの女性はいま—現代メキシコ女性の現状と主張 講演者：松久 玲子（言語文化教育研究センター助教授）、北條 ゆかり（滋賀大学経済学部助教授）</p>
2002年2月	海老名弾正資料の寄贈を受ける。
3月20日	人文科学研究所研究叢書35 伊藤彌彦編『新島襄全集を読む』（晃洋書房）刊行。
4月1日	研究所長 瀧田輝己商学部教授就任。
6月14日	<p>学内で第49回公開講演会開催。 テーマ：『新島襄全集を読む』刊行記念講演会 講演者：伊藤彌彦（法学部教授）、宮澤正典（同志社女子大学特任教授）</p>
8月25日	人文科学研究所研究叢書36 松久玲子編『メキシコの女たちの声—メキシコ・フェミニズム運動資料集』（行路社）刊行。
10月	東京家庭学校寄託資料の返却。
11月18日	<p>学内で第50回公開講演会開催（尹東柱詩碑建立7周年記念講演会）。 テーマ：朝鮮人留学生たちの京都 講演者：水野直樹（京都大学人文科学研究所教授）</p>
11月	柏木義円関係資料の寄贈を受ける。
2003年1月	初期全学連資料の寄贈を受ける。
4月1日	研究所長 森田雅憲商学部教授就任。
7月9日	<p>学内で第51回公開講演会開催。 テーマ：日本産業の10年—1991～2000年 講演者：尾崎 清（マツダ（株）常務執行役員財務・国内販売会社財務担当財務本部長）、武本 義郎（松下電器産業（株）生産革新本部モノづくり革新センター所長）</p>
2004年2月20日	<p>学内で第52回公開講演会開催。（27日、3月5日） テーマ：明治の〈知〉と〈道義〉 講演者：小林丈広（京都市歴史資料館主任歴史調査員）、庄司俊作（人文研教授）、松浦玲（著述業・元桃山学院大学教授）</p>

## 1. 年表

4月1日	<p>研究所長 西村卓経済学部教授就任。 新研究会発足。</p> <p>第1研究 同志社社史資料の研究—理事会記録・英文書簡発掘を中心に 第2研究 同志社大学とアーモスト大学の交流史—明治・大正・昭和 第3研究 近代日本の社会運動家—その書誌的総合研究 第4研究 地域社会の変容と地域開発の史的研究—近畿地方を対象に 第5研究 土産物に関する商品史的研究 第6研究 世界経済のグローバル化の進展と周縁部の構造変化 第7研究 産業集積の形成メカニズムと産業集積の地域社会に与えるインパクトに関する 経済学的・経営学的研究 第8研究 準政府(Quasi Government) の国際比較研究—特殊法人改革との関連において</p>
5月1日	同志社社史資料室が人文研から分離独立し、独立した機関として発足。
6月28日	<p>学内で第53回公開講演会開催。(7月5日、16日) テーマ：幕末から明治へ—時代を読み解く 講演者：鶴巻 孝雄(東京成徳大学人文学部教授)、高久 嶺之介(人文研教授)、高橋 秀直(京都大学大学院文学研究科助教授)</p>
9月1日	王述坤氏(中国東南大学外語系教授)を客員研究員として受け入れる(～2005年8月31日)。
10月31日	人文科学研究所研究叢書37 人文科学研究所編『アメリカン・ボード宣教師—神戸・大阪・京都ステーションを中心に、1869～1890年』(教文館)刊行。
12月1日	<p>学内で第54回公開講演会開催。(6日、13日) テーマ：京都の地域政治と鉄道 講演者：松下孝昭(神戸女子大学助教授)、渡邊恵一(鹿児島大学助教授)、田中真人(人文研教授)</p>
2005年7月9日	<p>学内で第55回公開講演会開催。 テーマ：ランドマーク商品の破壊力—商品史からのメッセージ 講演者：石川健次郎(商学部教授)、鍛冶博之(商学研究科博士課程前期)、小西浩太(商学研究科博士課程後期)、川満直樹(阪南大学経済学部助教授)、木山実(関西学院大学商学部助教授)、瀬岡誠(大阪学院大学国際学部教授)</p>
7月	林源十郎関係資料の寄贈を受ける。
11月26日	<p>学内で第56回公開講演会開催。 テーマ：京都商法をきく—新しいビジネスモデルを求めて 基調報告：林 廣茂(ビジネス研究科教授) 現場からの報告：一澤信三郎(一澤帆布代表取締役社長)、畑正高(香老舗松栄堂代表取締役) パネリスト：林廣茂、畑正高、一澤 信三郎、D・ヒュー・ウイッタカー(ビジネス研究科教授)</p>
2006年4月1日	研究所長 風間規男政策学学部教授就任。
6月	山室軍平日記の寄贈を受ける。
7月1日	<p>学内で第57回公開講演会開催。 テーマ：近代京都の創造 講演者：高久 嶺之介(人文研教授)、高木 博志(京都大学人文科学研究所助教授)</p>
11月	霊南坂教会文書(寄託文書)の返却。
2007年2月17日	<p>学内で第58回公開講演会開催。 テーマ：中国における産業集積のダイナミズム 講演者：篠原総一(経済学部教授)、松島茂(法政大学経営学部教授)</p>
3月31日	高久嶺之介専任研究員(教授)、依頼退職。名誉教授の称号授与(4月1日付)。
3月31日	人文科学研究所研究叢書38 布留川正博編『グローバル化とアジア—21世紀におけるアジアの胎動』(ミネルヴァ書房)刊行。

## 1. 年表

4月1日	<p>新研究会発足。</p> <p>第1研究 同志社大学とアーモスト大学交流史</p> <p>第2研究 北米日本人移民のトランスナショナリズム</p> <p>第3研究 近代日本の社会運動家の総合的研究</p> <p>第4研究 京都地域における大学生協の総合的研究</p> <p>第5研究 ランドマーク商品に関する商品史的研究</p> <p>第6研究 日独における大衆消費社会の出現と身体・医療の変遷</p> <p>第7研究 市場型間接金融とマクロ経済</p> <p>第8研究 公的ガバナンスの変容に関する調査研究</p> <p>第9研究 ヨーロッパと日本における植民地主義と近代性：比較研究のパラダイム構築に向けて</p> <p>第10研究 「花・歌・人形」－トランスユーラシアの開かれた文化文脈を求めて</p>
4月4日	田中真人専任研究員（教授）、逝去。
5月26日	<p>学内で第59回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：京都発 人形のすゝめ－四谷シモンとベルナール・フォコン</p> <p>講演者：岡林 洋（文学部教授）、藤井 秀雪(京都造形芸術大学教授)</p>
5月	同志社生協資料の寄贈をうける。
10月20日	<p>学内で第60回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：公的ガバナンスの動態に関する研究</p> <p>講演者：堀雅晴（立命館大学法学部教授）、山本啓（東北大学大学院情報科学研究科教授）</p>
12月1日	<p>学内で第61回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：同志社大学とアーモスト大学との交流史</p> <p>講演者：北垣 宗治（名誉教授）、藤倉 皓一郎（司法研究科特別客員教授）</p>
2008年4月1日	研究所長 神谷遊法学部教授就任。
7月19日	<p>学内で第62回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：狎れた劇薬、ランドマーク商品</p> <p>講演者：石川健次郎（商学部教授）、上村雅洋（和歌山大学経済学部教授）、吉田裕之（京都産業大学経営学部教授）、水原紹（大阪学院大学経営学部准教授）、鍛冶博之(商学研究科博士課程後期)、天野了一（社団法人関西経済連合会産業部参事）、川満直樹（商学部専任講師）、木山実（関西学院大学商学部准教授）、瀬岡誠（大阪学院大学経営学部教授）</p>
11月2日	<p>学内で第63回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：German Colonialism in Comparative Perspective 比較の視座から問うドイツ植民地主義</p> <p>講演者：Sebastian Conrad(Professor of History, the European University Institute)</p>
2009年2月28日	<p>学内で第64回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：大正デモクラシーと現代</p> <p>講演者：和田守（大東文化大学法学部教授）、西田毅（名誉教授）</p>
4月1日	研究所長 落合仁司経済学部教授就任。
7月16日	<p>学内で第65回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：同志社のキャンパス・ライフをささえて</p> <p>講演者：井上 史（人文研嘱託研究員(社外)・同志社生協50年史編纂委員会事務局）、及川 英二郎（東京学芸大学准教授）、井上 英之（大阪音楽大学教授）</p>
10月15日	<p>学内で第66回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：金融危機とプルーデンス政策</p> <p>講演者：丸茂俊彦（商学部教授）</p>

## 1. 年表

12月19日	学内で第67回公開講演会開催。 テーマ：北米日本人移民のトランスナショナリズム 講演者：物部ひろみ（言語文化教育研究センター専任講師）、東栄一郎（Associate Professor, University of Pennsylvania）
2010年1月30日	学内で第68回公開講演会（シンポジウム）開催。 テーマ：日独近代社会における健康と身体—社会の科学化と大衆化の過程で 講演者：服部伸（文学部教授）、高岡裕之（関西学院大学文学部教授）、水戸部由枝（明治大学政治経済学部専任講師）
3月30日	人文科学研究所研究叢書39 人文科学研究所編『金融システム改革と現代経済』（晃洋書房）刊行。
4月1日	新研究会発足。 第1研究 同志社大学とアーモスト大学の交流—歴史と問題点 第2研究 1930年代北米日系二世の越境教育 第3研究 近代日本におけるプロテスタント 第4研究 地域社会における近代化と国際化—キリスト教受容の具体相と、その問題点について 第5研究 ランドマーク商品に関する学際的研究 第6研究 大衆社会における身体・環境の操作—「マニュアル」の比較社会史 第7研究 金融危機と実体経済 第8研究 公的ガバナンス変化への適応と対応可能な方策に関する比較研究 第9研究 〈ポスト比較〉の植民地主義研究：国際研究の基盤構築に向けて 第10研究 「モノ」カルチャーによる日米交流 第11研究 生活協同組合と地域事業連合の総合的研究—大学・地域・人物における“協同” 第12研究 西洋史の中の近代：記憶の歴史化 第13研究 戦後日本思想の総合的研究 第14研究 産業集積の形成・発展に係る地域内・地域間経済要因に関する経済学的・経営学的研究 第15研究 制度と秩序の生成と変容に関する理論的・実証的構造分析 第16研究 グローバル競争枠組の変化と事業システム
5月22日	学内で第69回公開講演会開催。 テーマ：Rakugoと落語—異文化理解と認知心理学の視点から— 講演者：佐藤浩一（群馬大学大学院教育学研究科教授）、桂かい枝（落語家）
10月1日	田中智子 専任研究員（助教（有期））として着任。
10月29日	学内で第70回公開講演会開催。 テーマ：アメリカン・ボード創立200年 講演者：本井 康博（神学部教授）、坂本 清音（同志社女子大学名誉教授）
11月20日	学内で第71回公開講演会開催。 テーマ：今どきの大学生は？—当世書生気質— 講演者：名和又介（言語文化教育研究センター教授）、溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）、片桐新自（関西大学社会学部教授）
11月	柏木義円・寛吾関係資料の寄贈を受ける。
12月11日	学内で第72回公開講演会開催。 テーマ：同志社大学とアーモスト大学との交流史（続） 講演者：藤倉 皓一郎（東京大学名誉教授）、北垣 宗治（名誉教授）
2011年3月31日	人文科学研究所研究叢書41 岡林洋編『パサージュ文化論—〈花・歌・人形〉の開かれた文化研究』（晃洋書房）刊行。
4月1日	本岡拓哉 専任研究員（助教（有期））として着任。

## 1. 年表

4月1日	人文科学研究所研究叢書40 編『公的ガバナンスの動態研究—政府の作動様式の変容』（ミネルヴァ書房）刊行。
7月2日	学内で第73回公開講演会開催。 テーマ：日本生まれのランドマーク商品たち 講演者：石川健次郎（商学部教授）、岩見憲一（（公財）新産業創造研究機構技術アドバイザー）、鍛冶博之（徳島文理大学短期大学部商科講師）、水原紹（大阪学院大学経営学部准教授）、天野了一（関西学院大学都市創造研究センター客員研究員）、川満直樹（商学部専任講師）、瀬岡誠（大阪学院大学経営学部教授）
7月	河原林孟夫氏所蔵文書の寄贈を受ける。（寄託から寄贈へ）
10月8日	杉井六郎人文研名誉教授、逝去。
11月16日	学内で第74回公開講演会開催。 テーマ：グローバル競争枠組みの変化と日本企業の対応—鉄鋼業・建設業からみる事業システムの進化— 講演者：藤井善英（JFEスチール株式会社 専務執行役員）、小国恭範（飛鳥建設株式会社 上席執行役員 専務）
12月2日	学内で第75回公開講演会開催。 テーマ：アメリカ日系二世と越境教育 講演者：物部ひろみ（言語文化教育研究センター准教授）、吉田亮（社会学部教授）
2012年1月	堀俊造資料の寄贈を受ける。
2月18日	学内で第76回公開講演会（国際シンポジウム）開催。 テーマ：植民地支配責任を考える—歴史と法のあいだ— 講演者：金昌祿（慶北大学校法科大学教授）、永原 陽子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授） コメンテーター：金富子（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）、中野敏男（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）、梁鉉娥（ソウル大学法学専門大学院副教授）、庵道由香（立命館大学文学部准教授）
2月24日	人文科学研究所研究叢書42 吉田亮編『アメリカ日系二世と越境教育—1930年代を主にして』（不二出版）刊行。
4月1日	研究所長 百合野正博商学部教授就任。
5月20日	人文科学研究所研究叢書43 名和又介・庄司俊作・井上史編『大学の協同を紡ぐ—京都の大学生協』（コープ出版）刊行。
9月22日	学内で第77回公開講演会開催。 テーマ：戦後日本における行動する知識人—私たちは何を学ぶことができるか— 講演者：安田常雄（神奈川大学法学部特任教授）、広川禎秀（大阪市立大学名誉教授）、出原政雄（法学部教授）
11月23日	学内で第78回公開講演会（国際シンポジウム）開催。 テーマ：過去の記憶の場としての近代 講演者：Paolo Carafa(Professor,University of Rome)、中井義明（文学部教授）、若林邦彦（歴史資料館准教授）、Pierrick Pourchasse(Associate Professor,University of Brest)、堀井優（文学部准教授）、井福剛（文学研究科博士課程後期）、青木真兵（神戸山手大学非常勤講師）、Fabio Cavallero(University of Rome)
2013年1月24日	学内で第79回公開講演会開催。 テーマ：金融危機と日本経済 講演者：植田 宏文（商学部教授）

## 1. 年表

2月23日	学内で第80回公開講演会開催。 テーマ：カリマンタン／ボルネオにおけるアブラヤシ農園拡大とその影響—生産システム・地域社会・熱帯林保護— 講演者：林田 秀樹（人文研准教授）、加藤 剛（総合地球環境学研究所客員教授・京都大学名誉教授）、Herman Hidayat（インドネシア科学院社会文化研究センター上席研究員）
3月14日	人文科学研究所研究叢書44 石川健次郎編『ランドマーク商品の研究（5）—商品史からのメッセージ』（同文館出版）刊行。
3月30日	人文科学研究所研究叢書45 人文科学研究所編『アーモスト大学と同志社大学の関係史』（晃洋書房）刊行。
4月1日	研究所長 鷲江義勝法学部教授就任。 新研究会発足。 第1研究 近代日本とキリスト教 第2研究 1930年代アメリカ日系宗教の越境社会史 第3研究 同志社社会事業史の基礎的研究—その源流と水脈 第4研究 新島襄関係英文書簡の研究 第5研究 高度経済成長と戦後日本の総合的歴史研究—高度成長の社会史 第6研究 戦後日本思想の諸相 第7研究 組織ガバナンスとネットワーク・ガバナンスの連携分析による ローカル・ガバナンスの作動に関する実証的研究 第8研究 現代日本の権力 第9研究 近代社会における身体と環境の「知」と大衆：「マニュアル」からの比較史 第10研究 植民地主義のグローバル・ヒストリー 第11研究 グローバルアジアにおける文化交換（カルチュラル・インターアクション） —「中華」「バロック」「原住民」「オタク」を交換事例として 第12研究 歴史の記憶 第13研究 近代大西洋世界における離散と解放—アフリカ人の語りをめぐって 第14研究 ラテンアメリカにおける国際労働移動の比較研究 第15研究 持続的創造都市：京都のくらしと「まち」の総合研究 第16研究 京都の文化と観光の融合による新しい学びと観光の創造的研究 第17研究 伝統文化形成に関する総合データベースの構築と平安朝文学の伝承と受容に関する研究 第18研究 商品と社会—ランドマーク商品と高度経済成長 第19研究 マクロプルーデンス政策の国際比較
4月1日	林田専任研究員（准教授）、京都大学東南アジア研究所の連携准教授として国内研究を実施（～2014年3月31日）。
4月6日	学内で第81回公開講演会開催。 テーマ：大学はこうしてつくられる—高等教育の社会史 講演者：竹内洋（関西大学東京センター長、関西大学・京都大学名誉教授）、田中智子（人文研助教）
4月25日	「人文科学研究所あり方検討委員会」の設置。（研究所委員会）
4月	ケリー家所蔵アメリカンボード日本ミッション関連資料の寄贈を受ける。
9月21日	人文研国際学術シンポジウム テーマ：ミッション高等教育史の可能性（磁場としての東アジア第1回） 講演者：陶飛亜（上海大学教授）、李省展（恵泉女学園大学教授）、小檜山ルイ（東京女子大学教授）、駒込武（京都大学教授）、田中智子（人文研助教） コメンテーター：水谷智（グローバル地域文化学部准教授）、寺崎昌男（立教学院本部調査役）
10月	能勢克男関係資料の寄贈を受ける。

## 1. 年表

2014年2月28日	人文科学研究所研究叢書46 服部伸編『「マニュアル」の社会史—身体・環境・技術』（人文書院）刊行。
3月13日	「人文科学研究所あり方検討委員会報告」（研究所委員会） 〔当面の課題〕 (1)部門研究制度の見直し (2)専任教員の充足とガバナンスの確立 〔中期的課題〕 (1)研究活動の方向性の明確化 (2)研究の大学院教育へのフィードバック (3)専従研究員制度の活性化 〔長期的課題〕 多くの人が集まり出入りするオープンな共同利用・共同研究拠点として発展させること

## 1. 年表

3月30日	人文科学研究所研究叢書47 岡林洋編『カルチャー・ミックスー文化交換の美学序説』（晃洋書房）刊行。
3月-日	人文科学研究所研究叢書48 <i>Memory of the Past and Its Utility: Nation, State, Society and Identity</i> , Edited by Yoshiaki Nakai and Paolo Carafa, Scienze e Lettere 刊行。
4月1日	研究所長 市川喜崇法学部教授就任。
6月27日	学内で第82回公開講演会（国際シンポジウム）開催。 テーマ：Power in Contemporary Japan Chair and Discussant : Masahiro Yamada, Maie Thorsten, Yoshitaka Nishizawa, Ken'ichi Ikeda Speakers: Christina Tarnopolsky, Gill Steel, Katherine Tegtmeyer Pak, Hiroko Takeda, Mito Akiyoshi, Mayumi Nakamura, Ken'ichi Ikeda with collaboration of Keisuke Takemoto, Gregory Poole, Gracia Liu-Farrer, Gregory W. Noble, Masahiko Asano, Dyron K.Dabney
7月	折田彦市日記の寄贈を受ける。
11月8日	学内で第83回公開講演会開催。 テーマ：市民化する住民、開発と公害を生きる 講演者：藤井祐介（大谷大学非常勤講師）、小堀聡（名古屋大学大学院経済学研究科准教授）、広原盛明（京都府立大学元学長） ディスカッサント：井上史（人文研嘱託研究員（社外））
2015年1月11日	学内で第84回公開講演会開催。 テーマ：戦後日本思想と東アジアー知識人と民衆 講演者：萩原稔（大東文化大学准教授）、區建英（新潟国際情報大学教授）、南相虎（京畿大学校教授）
1月20日	人文科学研究所研究叢書49 出原政雄編『戦後日本思想と知識人の役割』（法律文化社）刊行。
1月31日	学内で第85回公開講演会開催。 テーマ：都市を占拠するー闇市・バラック街から見た都市空間の「戦後」 講演者：初田 香成（東京大学大学院工学系研究科助教）、本岡 拓哉（人文研助教） コメンテーター：佐賀朝（大阪市立大学大学院文学研究科教授）
1月	高橋晴雄関係資料の寄贈を受ける。
3月	大道俊関係資料の寄贈を受ける。
3月26日	人文科学研究所研究叢書50 川満直樹編『商品と社会ーランドマーク商品の研究』（同文館出版）刊行。
4月1日	研究所長 岡林洋文学部教授就任。
9月30日	田中智子 専任研究員（助教（有期））任用期間終了により退職
10月1日	田中智子 専任研究員准教授として着任
11月21日	学内で第86回公開講演会開催。 テーマ：歴史と記憶の形成 講演者：中井義明（文学部教授）、マリア・テレサ・ダレシオ(ローマ・サピエンツァ大学准教授)
11月	浮田和民関係資料の寄贈を受ける。
12月15日	学内で第87回公開講演会開催。 テーマ：沖縄と村から見る戦後の日本 講演者：桐山節子（グローバル・スタディーズ研究科博士課程後期課程）、櫻井重康（人文研嘱託研究員（社外））

## 1. 年表

2016年1月23日	学内で第88回公開講演会（シンポジウム）開催。 テーマ：インドネシア・リアウ州のアブラヤシと煙害ーグローバル化が促す農園企業・小農の行動とその帰結ー 講演者：永田淳嗣（東京大学大学院総合文化研究科准教授）、渡辺一生（総合地球環境学研究所研究員）、増田和也（高知大学農学部准教授） コメンテーター：加藤剛（京都大学名誉教授）、林田秀樹（人文研准教授）
3月30日	人文科学研究所研究叢書51 吉田亮編『越境する「二世」ー1930年代アメリカの日系人と教育』（現代史料出版）刊行。
3月31日	本岡拓哉 専任研究員（助教（有期））任用期間終了により退職。
4月1日	研究所長 八木匡経済学部教授就任。 新研究会発足。 第1研究 キリスト教と日米地域社会の形成 第2研究 同志社社会事業史の発展的研究ーその源流と水脈ー 第3研究 東アジアキリスト教伝道史基礎アーカイヴズの研究 第4研究 古典籍の保存・継承のための画像・テキストデータベースの構築と日本文化の歴史的研究 第5研究 生きるための環境をめぐるマニュアルの社会史 第6研究 ASEAN共同体の研究：自然資源開発、一次産品貿易と海洋権益をめぐる政治経済学 第7研究 衣食住文化からみた解放前後の日韓関係 第8研究 転換期のデモクラシーー「戦後民主主義」に関する歴史的・理論的研究ー 第9研究 ランドマーク商品に関する国際比較研究ーインフラ・所得・ライフスタイルー 第10研究 歴史学の成り立ちをめぐる基礎的研究ー現場と公共性ー 第11研究 ラテンアメリカにおける国際労働移動の比較研究 第12研究 脱植民地化と植民地主義の現在 第13研究 歴史のなかの記憶と記憶のなかの歴史 第14研究 防災・減災と回復力に関する政府間関係制度におけるリスク・ガバナンスの構築 第15研究 京都のくらしと「まち」の総合研究 第16研究 カルチャー・ミックスーアメリカ文化研究への呼びかけと「妙」のEco美学的考察 第17研究 開発主義国家戦後日本の形成・展開と社会、民衆の総合的歴史研究 占領冷戦/東アジア、1955年体制/参加と分権の政治システム、経済成長/持続的、開発/福祉、地域社会/地方自治、社会運動/社会統合" 第18研究 日本の女性と政治：'社会'と'個人'の結びつき 第19研究 経済制度と社会秩序の形成に関する理論実証分析
7月1日	2016年度第1回人文研スコーレ（8日、15日の計3回、於：今出川キャンパス） テーマ：「学都」創世史探訪ーエリート校と地方都市 講師：田中智子（人文研准教授）
7月	熊原嘉昭旧蔵資料の寄贈を受ける。
9月30日	田中智子 専任研究員准教授依頼退職
10月6日	学内で第89回公開講演会開催。 テーマ：香りと音楽ー「音と匂いの融合」（sonolfactif）芸術の発明 講演者：シャンタル・ジャケ（Chantal JAQUET、パリ第一大学パンテオンーソルボンヌ教授）
10月7日	2016年度第2回人文研スコーレ（14日、21日の計3回、於：今出川キャンパス） テーマ：国家と農業、農村ー歴史と現在 講師：庄司俊作（人文研教授）
12月	住谷悦治日記を遺族から借用してデジタル化する。
2017年3月30日	人文科学研究所研究叢書52 庄司俊作編『戦後日本の開発と民主主義ー地域にみる相剋』（昭和堂）刊行。
4月	野村かつ子資料の寄贈を受ける。

## 1. 年表

9月1日	2017年度第1回人文研スコーレ（8日、15日の計3回、於：今出川キャンパス） テーマ：階級社会と格差・貧困 講師：庄司俊作（人文研教授）
11月10日	2017年度第2回人文研スコーレ（24日、12月1日の計3回、於：京都府立京都学・歴彩館） テーマ：地域の主体形成と伝統社会—京都を中心に 講師：庄司俊作（人文研教授）
11月27日	学内で第90回公開講演会開催。 テーマ：ギリシア・ローマ史における歴史学と考古学—歴史像の構築とその方法— 講演者：中井義明（文学部教授）、パオロ・カラファ（ローマ大学サピエンツァ教授）、マリア テレサ・ダレーシオ（ローマ大学サピエンツァ准教授）
2018年3月31日	庄司俊作専任研究員（教授）定年退職、名誉教授の称号授与（4月1日付）。
4月1日	研究所長 小山隆社会学部教授就任。
4月1日	人文科学研究所研究叢書53 岡林洋・清瀬みさを編『カルチャー・ミックスII —「文化交換」の美 学応用編』（晃洋書房）刊行。
4月21日	学内で第91回公開講演会開催。 テーマ：ベラスケス絵画とスペイン黄金時代美術の形成—ハプスブルク家、ティツィアーノ、ルー ベンスを手掛かりに 講演者：川村やよい（オビエド大学美術歴史准教授） コメンテーター：清瀬みさを（文学部教授）
4月	徳富蘇峰書簡書写資料の寄贈を受ける。
9月	佐伯理一郎関係資料の寄贈を受ける。
12月7日	2018年度連続講座（14日、21日の計3回、於：今出川キャンパス） テーマ：パーム油がつなぐ東南アジアと日本 講師：林田秀樹（人文研准教授）
2019年1月10日	「人文科学研究所将来計画検討委員会報告」承認（研究所委員会）
1月12日	学内で第92回公開講演会開催。 テーマ：ASEAN-日本間の利害関係と東アジアの将来：資源・一次産品・領有権の視点から 基調講演：寺田貴（法学部教授） パネリスト：林田秀樹（人文研准教授）、巖善平（グローバル・スタディーズ研究科教授）、大岩 隆明（山口大学経済学部教授） モデレーター：西口清勝（立命館大学名誉教授）
1月24日	学内で第93回公開講演会開催。 テーマ：戦後日本の地方を生きる 講演者：櫻井重康（人文研嘱託研究員（社外））、庄司俊作（人文研名誉教授）

## 1. 年表

4月1日	<p>林葉子 専任研究員（助教（有期））として着任。 新研究会発足。</p> <p>第1研究 近代日本の社会事業の形成とキリスト教 —欧米思想の受容とその影響をめぐって—</p> <p>第2研究 第二次大戦後日本の教育再建と日系キリスト教</p> <p>第3研究 知識発見型データベース作成アプリの開発と日本伝統文化の分野横断的研究</p> <p>第4研究 ASEANの連結と亀裂の研究：供給連鎖・資源・領有権の東アジア的地経学・地政学</p> <p>第5研究 ソーシャル・イノベーション学構築に向けた総合的研究</p> <p>第6研究 体制形成期北朝鮮の文化史の学際的研究</p> <p>第7研究 『商品史文献解題』編集に関する研究</p> <p>第8研究 現代レイシズムの批判的比較分析—植民地研究との融合を目指して</p> <p>第9研究 歴史学の成り立ちをめぐる基礎的研究—現場と公共性</p> <p>第10研究 近現代日本の保守主義をめぐる思想史的研究</p> <p>第11研究 サプライチェーンの設計と運営をめぐる産業間・国際比較研究</p> <p>第12研究 京都のコミュニティに関する総合的研究—都市における「つながり」の実証研究</p> <p>第13研究 多元的なリスクをめぐる個と共同性に関する学際的研究 —移民・難民・災害避難民を軸に</p> <p>第14研究 京都の茶文化の学際的、国際的見地からの研究と、その地域活性化への還元に関する研究</p> <p>第15研究 日本と英国の若者と政治—政治行動・政治意識の比較と分析</p> <p>第16研究 経済制度と社会秩序の形成に関する理論実証分析</p> <p>第17研究 ポスト新自由主義時代におけるラテンアメリカの人権レジーム —地域統合と各国での実践</p>
10月8日	<p>学内で第94回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：キリスト教信仰に基づく女性支援の歴史—かにた婦人の村の半世紀</p> <p>講演者：林葉子（人文研助教）、天羽道子（かにた婦人の村名誉村長）、横田千代子（婦人保護施設いずみ寮施設長、全国婦人保護施設等連絡協議会会長）</p> <p>コメンテーター：木原活信（社会学部教授）、レギーネ・ディート（グローバル地域文化学部助教）</p>
11月8日	<p>学内で第95回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：若年女性の政治参加—女性政治リーダートレーニングの試みから</p> <p>講演者：申琪榮（お茶の水女子大学准教授、一般社団法人 パリテ・アカデミー共同代表）</p> <p>討論者：武田宏子（名古屋大学大学院法学研究科教授）</p>
12月15日	<p>人文科学研究所研究叢書54 松久玲子編『国境を越えるラテンアメリカの女性たち』（晃洋書房）刊行。</p>
12月15日	<p>学内で第96回公開講演会開催。</p> <p>テーマ：都市養蜂が描く持続可能な社会のデザインとは？</p> <p>講演者：田中淳夫 NPO法人銀座ミツバチプロジェクト理事長</p> <p>ディスカッサント：古本強（龍谷大学農学部教授）、浅井俊子（ImpactHub Kyoto代表理事）、佐藤壮広（立教大学非常勤講師）、服部篤子（同志社大学政策学部教授）今里滋（同志社大学政策学部教授）</p>